



Acronis Backup & Recovery 11.5

Update 2

インストール ガイド

適用されるエディション

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> Advanced Server | <input checked="" type="checkbox"/> Server for Windows |
| <input type="checkbox"/> Virtual Edition | <input type="checkbox"/> Server for Linux |
| <input type="checkbox"/> Advanced Server SBS Edition | <input checked="" type="checkbox"/> Workstation |
| <input type="checkbox"/> Advanced Workstation | |
| <input checked="" type="checkbox"/> Microsoft Exchange Server の場合 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> Microsoft SQL Server(シングルパス)の場合 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> Microsoft Active Directory(シングルパス)の場合 | |

目次

1	インストールする前に.....	3
1.1	試用モードでの製品の使用について	3
1.2	ライセンスの種類(スタンドアロン エディションとアドバンスド エディション)	3
1.3	Acronis Backup & Recovery 11.5 コンポーネント	4
1.3.1	エージェント for Windows.....	5
1.3.2	エージェント for Microsoft Exchange Server	6
1.3.3	エージェント for Microsoft SQL Server(シングルパス)	6
1.3.4	エージェント for Microsoft Active Directory(シングルパス)	6
1.3.5	管理コンソール	6
1.3.6	ブータブル メディア ビルダ	7
1.4	サポートされるオペレーティング システム.....	7
1.5	システム要件	8
2	Acronis Backup & Recovery 11.5 のインストール.....	9
2.1	準備	9
2.2	スタンドアロン エディションでの対話型インストール	9
2.2.1	インストールの種類.....	10
2.2.2	Acronis サービスのログイン情報の指定.....	10
2.3	エージェント for Exchange のインストール	11
2.4	エージェント for SQL(シングル パス)のインストール	13
2.5	エージェント for Active Directory(シングル パス)のインストール	14
2.6	無人インストール	14
2.7	コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ	16
2.8	アップデート.....	18
3	スタンドアロン製品からアドバンスド プラットフォームへのアップグレード.....	18
4	ソフトウェアのアップデートの確認.....	20
5	Acronis Backup & Recovery 11.5 のアンインストール	21
5.1	対話型アンインストール	21
5.2	無人アンインストール	21
5.3	Acronis セキュア ゾーンの削除	21

注意: お住まいの地域によっては Acronis Backup & Recovery Online を使用できない場合があります。詳細については、「<http://www.acronis.co.jp/my/backup-recovery-online/>」を参照してください。

1 インストールする前に

このセクションでは、製品のインストール前に生じることが予期される疑問点について説明します。

1.1 試用モードでの製品の使用について

Acronis Backup & Recovery 11.5 のライセンスを購入する前に、ソフトウェアを試してみることが可能です。試用版は、プロダクト キーなしで使用できます。

試用モードで製品をインストールするには、セットアップ プログラムをローカルで実行するか、リモート インストール機能を使用します。無人インストールとその他のインストール方法は、サポートされていません。

試用モードの制限

Acronis Backup & Recovery 11.5 を試用モードでインストールする場合、次のような制限事項があります。

- Universal Restore 機能は無効になっています。

ブータブル メディアに関するその他の制限事項は次のとおりです。

- ディスク管理機能は使用できません。ユーザー インターフェイスを試用することはできますが、変更を適用するオプションはありません。
- 復元機能は使用できますが、バックアップ機能は使用できません。バックアップ機能を試用するには、本ソフトウェアをオペレーティング システムにインストールしてください。

完全モードへのアップグレード

試用期間が終了すると、製品の GUI にプロダクト キーを指定または取得するように求める通知が表示されます。

プロダクト キーを指定するには、[ヘルプ] > [ライセンスの変更] をクリックします。セットアップ プログラムを実行することによってプロダクト キーを指定することはできません。

オンライン バックアップ サービスの試用サブスクリプションをアクティブ化するか、サブスクリプションを購入した場合、プロダクト キーを指定しているかどうかに関係なく、サブスクリプションの有効期限が切れるまでオンライン バックアップを利用できます。

1.2 ライセンスの種類(スタンドアロン エディションとアドバンスド エディション)

Acronis Backup & Recovery 11.5 のライセンスは、製品によってバックアップするコンピュータの数に基づきます。

スタンドアロン エディション

次のエディションがあります。

- Acronis Backup & Recovery 11.5 Server for Windows
- Acronis Backup & Recovery 11.5 Server for Linux

- Acronis Backup & Recovery 11.5 Workstation

スタンドアロン エディションは、単一のコンピュータのデータをバックアップするためのものです。上記のライセンスがあれば、すべての製品コンポーネントを同じコンピュータにインストールできます。製品のインストール中に、上記のエディションのいずれかのプロダクトキーを要求されます。

Advanced エディション(集中管理を伴うエディション)

次のエディションがあります。

- Acronis Backup & Recovery 11.5 Advanced Server
- Acronis Backup & Recovery 11.5 Virtual Edition
- Acronis Backup & Recovery 11.5 Advanced Server SBS Edition
- Acronis Backup & Recovery 11.5 Advanced Workstation

これらのエディションは、複数のコンピュータをバックアップするためのものです。これらのエディションには、バックアップ対象のコンピュータにインストールする必要があるコンポーネントに加え、集中管理を可能にする管理サーバー、およびバックアップしたデータを保存するためのストレージ ノードが含まれています。スタンドアロン エディションとは異なり、アドバンスド エディション ではバックアップされたコンピュータにリモート接続できます。

スタンドアロン エディションと同様、バックアップするコンピュータそれぞれのライセンスが必要です。ライセンスが必要なコンポーネント(エージェント)のインストール中、ライセンス サーバーを指定するか、手動でプロダクト キーを入力することができます。他のコンポーネントのインストールにライセンスは必要ありません。たとえば、ストレージ ノードは最大 50 までの必要な数をインストールすることが可能です。

スタンドアロン エディションのコンポーネントが、アドバンスド エディションのコンポーネントとやり取りをすることはありません。

1.3 Acronis Backup & Recovery 11.5 コンポーネント

ここでは、Acronis Backup & Recovery 11.5 のコンポーネントとその機能の概要について説明します。

管理対象のコンピュータ用のコンポーネント(エージェント)

これらは、Acronis Backup & Recovery 11.5 によって管理されるコンピュータ上でデータのバックアップ、復元、その他の処理を実行するアプリケーションです。各管理対象のコンピュータ上でエージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。エージェントには追加の機能を実行できるようにする複数の機能またはアドオンが含まれているので、追加のライセンスが必要になることがあります。

コンソール

コンソールには、エージェントに対するグラフィカル ユーザー インターフェイスがあります。コンソールの使用にライセンスは必要ありません。Acronis Backup & Recovery 11.5 のスタンドアロン エディションでは、コンソールはエージェントと一緒にインストールされるためエージェントから切断することはできません。

ブータブル メディア ビルダ

ブータブル メディア ビルダを使用して、エージェントや他のレスキュー ユーティリティをレスキュー環境で使用するためのブータブル メディアを作成することができます。Acronis Backup & Recovery 11.5 のスタンドアロン エディションでは、ブータブル メディア ビルダはエージェントと一緒にインストールされます。インストールされた場合、エージェントへのすべてのアドオンがレスキュー環境で利用可能になります。

1.3.1 エージェント for Windows

このエージェントを使用して、Windows の下でディスク レベルおよびファイル レベルでデータを保護することができます。

ディスクのバックアップ

ディスク レベルでのデータ保護は、ディスク全体またはボリューム ファイル システム全体と、オペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、または、セクタ単位のバックアップを使用したすべてのディスク セクタのバックアップ (RAW モード) を基にしています。ディスクまたはボリュームのコピーがパッケージ化された状態で格納されているバックアップを、ディスク (ボリューム) バックアップまたはディスク (ボリューム) イメージと呼びます。これらのバックアップからはディスクまたはボリュームの全体を復元することも、個別のフォルダやファイルを復元することもできます。

ファイルのバックアップ

ファイル レベルでのデータ保護は、エージェントがインストールされているコンピュータ、またはネットワーク共有上にあるファイルおよびフォルダのバックアップに基づいています。ファイルは、元のロケーションにも他のロケーションにも復元できます。バックアップしたすべてのファイルおよびフォルダを復元したり、復元する対象を選択することが可能です。

その他の操作

仮想コンピュータへの変換

エージェント for Windows は、次のいずれかの種類の新しい仮想コンピュータにディスク バックアップを復元することで、変換を行います。VMware Workstation、Microsoft Virtual PC、Citrix XenServer Open Virtual Appliance (OVA)、または Red Hat Kernel-based Virtual Machine (KVM)。設定済みで使用可能なコンピュータのファイルは、選択したフォルダに保存されます。それぞれの仮想ソフトウェアを使用してコンピュータを起動するか、他の用途のためにコンピュータのファイルを準備することができます。

ディスクの管理

エージェント for Windows には、Acronis Disk Director Lite (使いやすいディスク管理ユーティリティ) が用意されています。ディスクのクローン作成、ディスクの変換、ボリュームの作成、ボリュームのフォーマット、ボリュームの削除などのディスク管理操作、および MBR と GPT の間のディスクパーティション スタイルの変更、ディスク ラベルの変更などの操作は、オペレーティング システムで実行するかブータブル メディアを使用して実行することができます。

1.3.1.1 Universal Restore

Universal Restore アドオンを使用すると、エージェントがインストールされているコンピュータ上で異なるハードウェアの復元機能を使用して、この機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。

できます。Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどのオペレーティング システムの起動にとって重要なデバイスの相違に対応します。

1.3.2 エージェント for Microsoft Exchange Server

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Microsoft Exchange Server を使用すると、Microsoft Exchange データベースまたは個別のメールボックスをバックアップおよび復元できます。エージェントは Microsoft VSS を使用してバックアップされたデータベースの整合性を保証します。より小さいデータ項目（電子メール、予定表のイベント、メモ）の復元には、データベースのバックアップとメールボックスのバックアップのどちらも使用できます。

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Microsoft Exchange Server は、このマニュアルではこれ以降「エージェント for Exchange」と呼びます。

1.3.3 エージェント for Microsoft SQL Server(シングルパス)

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for SQL(シングルパス)を使用すると、シングルパスのディスクとアプリケーションのバックアップを作成したり、これらのバックアップから Microsoft SQL データベースを復元することができます。これらのデータベースは実行中の SQL Server インスタンスに直接復元できます。また、ファイル システム上のフォルダに抽出することもできます。

このエージェントは Microsoft VSS を使用して、バックアップされたデータベースが確実に整合するようにします。バックアップが成功すると、エージェントは SQL Server トランザクション ログを切り捨てることができるようになります。

このエージェントはエージェント for Windows 『5ページ』 のアドオンとしてインストールされます。

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Microsoft SQL Server(シングルパス)は、このマニュアルではこれ以降「エージェント for SQL(シングルパス)」と呼びます。

1.3.4 エージェント for Microsoft Active Directory(シングルパス)

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Microsoft Active Directory(シングル パス)を使用すると、シングル パスのディスクとアプリケーションのバックアップを作成したり、これらのバックアップから Microsoft Active Directory データをファイル システムのフォルダへ抽出することができます。

このエージェントは Microsoft VSS を使用して、バックアップされたデータが確実に整合するようにします。

このエージェントはエージェント for Windows 『5ページ』 のアドオンとしてインストールされます。

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Microsoft Active Directory(シングル パス)は、このマニュアルではこれ以降「エージェント for Active Directory(シングル パス)」と呼びます。

1.3.5 管理コンソール

Acronis Backup & Recovery 11.5 管理コンソールは、Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェントにローカルでアクセスするための管理ツールです。エージェントにはリモート接続できません。

1.3.6 ブータブル メディア ビルダ

Acronis ブータブル メディア ビルダは、ブータブル メディアを作成するための専用のツールです。Windows 上にインストールするメディア ビルダは、Windows プレインストール環境、または Linux カーネルをベースにしたブータブル メディアを作成できます。

Universal Restore 『5ページ』 アドオンを使用して、異なるハードウェアの復元機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどの Windows の起動にとって重要なデバイスの相違に対応できます。

1.4 サポートされるオペレーティング システム

重要: このサポートの詳細と制限事項については、「Windows 8 と Windows Server 2012 のサポート」をご参照ください。

Acronis Backup & Recovery 11.5 管理コンソール、Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Windows

Acronis Backup & Recovery 11.5 Server for Windows

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows 2000 SP4: Datacenter Edition を除くすべてのエディション

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Vista: すべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows 7: すべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010/2011

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012

エージェントにはリモート接続できません。

Acronis Backup & Recovery 11.5 Workstation

Windows 2000 Professional SP4

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows Vista: すべてのエディション (x86、x64)

Windows 7: すべてのエディション (x86、x64)

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

エージェントへのリモート接続はできません。

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Microsoft Exchange Server

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
Windows Small Business Server 2003/2003 R2
Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter の各エディション(x86、x64)
Windows Small Business Server 2008
Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション
Windows Server 2012/2012 R2: Standard、Datacenter の各エディション

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Microsoft SQL Server(シングルパス)

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
Windows Small Business Server 2003/2003 R2
Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter の各エディション(x86、x64)
Windows Small Business Server 2008
Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション(x86、x64)
Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
Windows MultiPoint Server 2010/2011
Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション
Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション(x86、x64)
Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション
Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Microsoft Active Directory(シングルパス)

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)
Windows Small Business Server 2003/2003 R2
Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter の各エディション(x86、x64)
Windows Small Business Server 2008
Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション
Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション
Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

1.5 システム要件

Windows にインストールされるコンポーネント

必要なディスク領域の合計を計算するには、インストールを計画しているコンポーネントについて、表の 3 番目と 4 番目の列に指定されている値を加算します。

コンポーネント	メモリ(OS および実行中のアプリケーションに必要な容量)	インストールまたはアップデートに必要なディスク領域	コンポーネントが使用するディスク領域	その他
Server for Windows (完全インストール)	420 MB	2.6 GB	2.4 GB	画面解像度 800 x 600 ピクセル以上
ワークステーション (完全インストール)	420 MB	2.9 GB	2.4 GB	
ブータブル メディアビルダ (Windows)	480 MB	1.3 GB	930 MB	

ブータブル メディア

メディアの種類	メモリ	ISO イメージ サイズ	その他
Windows PE ベース	1 GB	410 MB	
Linux ベース	370 MB	490 MB	

2 Acronis Backup & Recovery 11.5 のインストール

このセクションでは、製品のインストール時に生じることが予期される疑問点について説明します。

2.1 準備

ネットワーク ポート:Acronis Backup & Recovery 11.5 では、ローカルのインストールおよびコンポーネント間の通信に TCP ポート **9876** を使用します。このポートは、セットアップ プログラムにより Windows ファイアウォールを経由して自動的に開かれます。別のファイアウォールを使用している場合は、そのファイアウォール経由の受信要求と送信要求の両方に対して必ずこのポートを開いてください。

暗号化ソフトウェア:PGP Whole Disk Encryption などのディスクレベルの暗号化ソフトウェアを使用する予定がある場合は、必ずそのソフトウェアを Acronis Backup & Recovery 11.5 のインストール前にインストールしてください。

2.2 スタンドアロン エディションでの対話型インストール

1. 管理者としてログオンし、Acronis Backup & Recovery 11.5 セットアップ プログラムを起動します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11.5 のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約の内容に同意します。
4. Acronis Backup & Recovery 11.5 でバックアップできるアプリケーションがコンピュータに存在している場合、そのアプリケーション専用のバックアップで保護するアプリケーションを選択します。選択に応じて、エージェント for Exchange またはエージェント for Hyper-V など、その他のコンポーネントがインストール対象として選択されます。
5. インストールの種類(試用または完全)『10ページ』を選択します。
6. 製品のインストール先フォルダを指定します。

7. エージェント サービスを実行するアカウントの資格情報を指定します。デフォルトでは、セットアップ プログラムによってサービス専用のユーザー アカウントが作成されます。「Acronis サービスの資格情報の指定『10ページ』」で **Acronis Agent User** アカウントに関する情報を表示します。
8. Microsoft SQL Server データを保護する場合、コンピュータにインストールされている Microsoft SQL Server インスタンスの資格情報『13ページ』を指定します。
9. コンピュータを Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム(CEP)に参加させるかどうかを選択します。

概要ウィンドウには、以前に入力されたプロダクト キーに応じてインストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。

注意: インストール手順をキャンセルすると、最後のコンポーネントのみが削除されます。他のコンポーネントがある場合は、インストールされたままになります。

2.2.1 インストールの種類

プロダクト キーまたはサブスクリプションがあるかどうかに応じてインストールの種類を選択します。

試用モードでのインストール

[無料の試用版の開始を希望します] を選択します。

試用モード『3ページ』で製品がインストールされます。

オンライン バックアップ専用のインストール

1. **[ライセンスまたはサブスクリプションを購入しました]** をオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
2. **[のバックアップのライセンス]**で **[オンライン バックアップのみ: ライセンスは不要です]** を選択します。
3. **[次へ]**をクリックして、次に確認ウィンドウで **[はい]** をクリックします。

オンライン ストレージにバックアップする前に、コンピュータでオンライン バックアップ サービスのスク립ションをアクティブ化する必要があります。

注意 エージェント for Exchange は、オンライン バックアップをサポートしていません。

完全モードでのインストール

1. **[ライセンスまたはサブスクリプションを購入しました]** をオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
2. **[ライセンスの追加]** をクリックします。
3. プロダクト キーを入力します。また、Acronis Universal Restore のプロダクト キーも追加できます(購入した場合)。**[次へ]**をクリックします。

2.2.2 Acronis サービスのログイン情報の指定

Acronis Backup & Recovery 11.5 は、**Acronis Managed Machine Service**(エージェント サービス)を使用します。Acronis Backup & Recovery 11.5 をインストールするとき、そのサービスを実行するアカウントを指定する必要があります。

専用のユーザー アカウントを作成するか、ローカル ユーザーまたはドメイン ユーザーの既存のアカウントを指定できます。たとえば、**¥LocalUser** や **DomainName¥DomainUser** のように指定します。

デフォルトでは、セットアップ プログラムによってサービス専用の新しいアカウントが作成されます。

どういった場合に既存のアカウントを選択するか

新しいアカウントはほとんどの場合に適合します。既存のアカウントを指定する必要があるのは、Active Directory ドメインのドメイン コントローラに製品をインストールするときです (Windows Server オペレーティング システムをサポートするエディションの場合)。この制限は、ドメインの通常のメンバには適用されません。

アカウントに対する権限

アカウントには (既存のものでも新しく作成されたものでも)、次の権限が与えられます。

- アカウントは、**Backup Operators** グループ内に含まれます。
サービスに対する [新規作成] アカウントは、**Administrators** グループにも含まれます。セキュリティ上の理由から、セットアップ プログラムでは、既存の アカウントをこのグループに自動的に含めることはありません。
- このアカウントに、フォルダ **%PROGRAMDATA%¥Acronis** (Windows XP および Server 2003、**%ALLUSERSPROFILE%¥Application Data¥Acronis**) およびそのサブフォルダで [フル コントロール] 権限が付与されます。
- このアカウントは、**HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Acronis** キーのレジストリ キーに対する [フル コントロール] 権限を付与されます。
- アカウントには、サービスとしてログオン、プロセスのメモリ クォータの増加、プロセス レベル トークンの置き換え、およびファームウェアの環境値の修正のユーザー権限が与えられます。

高度な使用に関するヒント

- 新しいアカウントの名前は、**Acronis Agent User** になります。
- コンピュータが Active Directory ドメインの一部である場合は、既存のアカウントまたは新規に作成されたアカウントへの上記のユーザー権限の付与がドメインのセキュリティ ポリシーによって妨げられないようにしてください。
- インストールの後に、サービスに別のアカウントを指定しないでください。別のアカウントを指定すると、製品が動作を停止する可能性があります。別のアカウントを指定する必要がある場合は、新しいアカウントに上記の権限が付与されることを確認してください。

2.3 エージェント for Exchange のインストール

エージェント for Exchange では、Microsoft Exchange Server のデータを保護できます。

準備

ライセンス: 十分な数のライセンスがあることを確認してください。Exchange Server ごとに 1 ライセンスが必要です。Exchange クラスタを使用している場合、クラスタのノードごとにライセンスを取得することをお勧めします。エージェント for Exchange を使用する場合、次のライセンスのいずれかが必要です。

- Acronis Backup & Recovery 11.5 for Microsoft Exchange Server。
- Acronis Backup & Recovery 11.5 Advanced Server SBS Edition。

試用モードで製品を使用する場合、ライセンスは不要です。

要件: Exchange Server が次の要件に適合していることを確認してください。

- Microsoft Exchange Server 2013 の場合: 累積的な更新プログラム 1 (CU1)以降がインストールされている必要があります。
- Microsoft Exchange Server 2007/2010 の場合: MAPI Client および Collaboration Data Objects (バージョン 1.2.1) パッケージがインストールされている必要があります。このパッケージをダウンロードしてインストールする方法については、<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=36771> (英語) で詳細をご確認ください。
- Microsoft Exchange Server 2003 SP2 の場合: <http://support.microsoft.com/kb/908072> の修正プログラムがインストールされている必要があります。
- Exchange ライター for VSS は、オンになっている必要があります。Windows Small Business Server 2003 の場合、ライターはデフォルトでオフになります。ライターをオンにする方法については、<http://support.microsoft.com/kb/838183/> の Microsoft サポート技術情報の記事を参照してください。

選択すべきセットアップ プログラム

エージェント for Exchange は、Acronis Backup & Recovery 11.5 のスタンドアロン エディションとアドバンスド エディションの両方のセットアップ プログラムに含まれています。エージェントの機能は、どちらのセットアップ プログラムでも同じです。ただし、特定の高度な機能は、Acronis Backup & Recovery 11.5 アドバンスド エディションで、特定のコンポーネントを構成した場合にのみ使用できます。ここでは、スタンドアロン エディションとアドバンスド エディションの間で、コンポーネントの構成を選択するためのヒントを提供します。

- **Acronis Backup & Recovery 11.5 スタンドアロン エディションのセットアップ プログラム**
すべての Exchange サービスとデータをスタンドアロンの Exchange Server でホストしているシンプルな Exchange 環境で、Exchange データのバックアップを行うために最適です。
- **Acronis Backup & Recovery 11.5 アドバンスド エディションのセットアップ プログラム**
複数の Exchange Server をクラスタに統合している大規模な Exchange 環境に最適です。次の機能は、Acronis Backup & Recovery 11.5 アドバンスド エディションの構成でのみ使用可能です。
 - **Exchange クラスタの包括保護**
Acronis Backup & Recovery 11.5 管理サーバーとエージェント for Exchange が各クラスタ ノードにインストールされている必要があります。
 - **高速完全バックアップ メソッドの使用**
Acronis Backup & Recovery 11.5 管理サーバーおよび Acronis Backup & Recovery 11.5 ストレージ ノードがインストールされている必要があります。エージェント for Exchange に「重複除外 for Microsoft Exchange Server」アドオンがインストールされている必要があります。
アドオンは別売りです。エージェント for Windows とその重複除外アドオンが Exchange Server にインストールされている場合は、アドオンを購入してインストールする必要はありません。

スタンドアロン エディションのセットアップ プログラムからのインストール

セットアップ プログラムを実行して、画面の指示 『9ページ 』に従います。

2.4 エージェント for SQL (シングル パス) のインストール

エージェント for SQL (単一パス) を使用すると、単一パスのディスクとアプリケーションのバックアップを作成したり、これらのバックアップから Microsoft SQL データベースを復元することができます。

このエージェントは Microsoft SQL Server を実行しているコンピュータにしかインストールできません。

エージェント for SQL (単一パス) は、エージェント for Windows のアドオンとしてインストールされます。

必要なライセンス

エージェント for Windows をインストールするには、このエージェントのインストールを許可する任意のライセンスを使用します。

エージェント for SQL (単一パス) をインストールするには、次のライセンスのいずれかを使用します。

- Acronis Backup & Recovery 11.5 Microsoft SQL Server アドオン
- Acronis Backup & Recovery 11.5 Microsoft SharePoint アドオン

これらのライセンスはそれぞれ、物理ホストと、そのホスト上で実行されている 4 つの仮想コンピュータにエージェント for SQL (単一のパス) をインストールすることを可能にします。エージェント for Windows は、エージェント for SQL (単一のパス) とともに、それぞれの仮想コンピュータにインストールする必要があることを忘れないでください。

試用モードで製品を使用する場合、ライセンスは不要です。

インストール

エージェント for Windows と同じようにエージェントをインストールします。詳細な手順については、「スタンドアロン エディションでの対話型インストール」『9ページ』を参照してください。

Microsoft SQL インスタンスの資格情報

インストール時に、コンピュータにインストールされている Microsoft SQL インスタンスごとに **sysadmin** の資格情報を指定するよう要求されます。これらの資格情報は、エージェント サービスアカウントに **sysadmin** の役割を許可するために必要です。

ログイン情報の入力をスキップして、後から、SQL Server Management Studio を使用、または T-SQL を実行することによって、**sysadmin** の役割をエージェントに与えることもできます。エージェントに **sysadmin** の役割を与えない場合、すべてのバックアップ計画で **sysadmin** ログイン情報を指定する必要があります。

詳細については、ユーザー ガイドの「SQL Server のバックアップと復元に必要な権限」セクションを参照してください。

2.5 エージェント for Active Directory(シングル パス)のインストール

エージェント for Active Directory(シングル パス)を使用すると、シングル パスのディスクとアプリケーションのバックアップを作成したり、これらのバックアップから Microsoft Active Directory データを復元することができます。

このエージェントは、ドメイン コントローラにのみインストールできます。

エージェント for Active Directory(シングル パス)は、エージェント for Windows のアドオンとしてインストールされます。

必要なライセンス

エージェント for Windows をインストールするには、このエージェントのインストールを許可する任意のライセンスを使用します。

エージェント for Active Directory(シングル パス)をインストールするには、Acronis Backup & Recovery 11.5 Microsoft Active Directory アドオン ライセンスを使用します。

このライセンスによって、物理ホストと、そのホスト上で実行されている 4 つの仮想コンピュータにエージェント for Active Directory(シングル パス)をインストールできるようになります。エージェント for Windows は、エージェント for Active Directory(シングル パス)とともに、それぞれの仮想コンピュータにインストールする必要があることを忘れないでください。

試用モードで製品を使用する場合、ライセンスは不要です。

インストール

エージェント for Windows と同じようにエージェントをインストールします。詳細な手順については、「スタンドアロン エディションでの対話型インストール」『9ページ』を参照してください。

2.6 無人インストール

Acronis Backup & Recovery 11.5 のコンポーネントは、対話型モードの他に、無人モードでもインストールすることができます。

トランスフォーム(.mst ファイル)と呼ばれるファイルを必要とするコンポーネントもあります。他のコンポーネントではトランスフォームの使用はオプションです。

次の表に、無人モードでインストールまたはアップデートできるコンポーネントと機能を示します。

	コンポーネント名	msi ファイル名	トランスフォームの必要性
エージェント コア(どのようなエージェントでも必須)	エージェント コア	AcronisAgentCore.msi	+
エージェント	エージェント for Windows 『5ページ』	AcronisAgentWindows.msi	+

	エージェント for Microsoft Exchange Server 『6ページ』	AcronisAgentExchange.msi	+
エージェントの機能	Universal Restore 『5ページ』	AcronisUniversalRestore.msi	+
	エージェント for SQL 『6ページ』	AcronisAgentMsSqlSinglePass.msi	+
	エージェント for Active Directory 『6ページ』	AcronisAgentADSinglePass.msi	+
メディアビルダ	ブータブルメディアビルダ 『7ページ』	AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi	-
管理コンソール	管理コンソール 『6ページ』	AcronisManagementConsole.msi	-

準備

コンポーネントで使用されるTRANSFORMを作成するには、CONFIGURATION スクリプト `mst_gen.vbs` が必要です。

このスクリプトは、Acronis Backup & Recovery 11.5 管理コンソールがインストールされているフォルダにあります。デフォルトのフォルダパス:

- `%ProgramFiles%¥Acronis¥BackupAndRecoveryConsole` 32 ビット Windows の場合
- `%ProgramFiles(x86)%¥Acronis¥BackupAndRecoveryConsole` 64 ビット Windows の場合

インストールの順序

最初に管理コンソールをインストールします。エージェントをインストールする場合、まず、エージェント コア コンポーネント、次にエージェント自体、最後に(必要に応じて)Universal Restore 機能をインストールします。

インストール手順

コンポーネントを無人モードでインストールまたはアップデートする手順は、次のとおりです。

1. セットアップ プログラムを開始します。
2. [インストール ファイルの取り出し] をクリックします。
3. コンポーネントのインストール パッケージを取り出します。
4. TRANSFORMを使用するコンポーネントをインストールする場合、CONFIGURATION スクリプトを実行して、TRANSFORMを作成します。それ以外の場合は、この手順をスキップします。
たとえば、次のようになります。

- 次のコマンドでは、エージェント コア コンポーネントをインストールするためのTRANSFORMが作成されます。

```
mst_gen.vbs /msi_path C:¥AcronisAgentCore.msi
```

- 次のコマンドは、プロダクト キー ABCDE-54321 を使用して エージェント for Windows をインストールするTRANSFORMを作成します。

```
mst_gen.vbs /msi_path C:¥AcronisAgentWindows.msi /serial ABCDE-54321
```

同様に、Universal Restore 機能をインストールするためのTRANSFORMを作成できます。

コンフィギュレーション スクリプトの構文の詳細は、「コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ『16ページ』」をご参照ください。

5. 次のいずれかの方法を使用して、コンポーネントをインストールまたはアップデートします。
- コンポーネントをインストールする場合、次のように Windows インストーラ(`msiexec` プログラム)を実行します。
トランスフォームを使用するコンポーネント(この例では、エージェント for Windows)をインストールする場合:

```
msiexec /i c:¥AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=AcronisAgentWindows.mst /qb
```

それ以外の場合(この例では、管理コンソールをインストール):

```
msiexec /i c:¥AcronisManagementConsole.msi /qb
```

- コンポーネントをアップデートする場合は、次のように Windows Installer を実行します。
トランスフォームを使用するコンポーネント(この例では、エージェント for Windows)をアップデートする場合:

```
msiexec /i C:¥AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=C:¥AcronisAgentWindows.mst ADDLOCAL=ALL /qb
```

それ以外の場合(この例では、管理コンソールをアップデート):

```
msiexec /i C:¥AcronisManagementConsole.msi ADDLOCAL=ALL /qb /! *v C:¥log.log
```

2.7 コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ

コンフィギュレーション スクリプト `mst_gen.vbs` は、Acronis コンポーネント(Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Windows など)の `.mst` インストール パッケージ ファイル(トランスフォーム、変更、または変更ファイルとも呼ばれます)を作成します。

インストール パッケージとともにトランスフォームを使用すると、コンポーネントを無人モードでインストールできます。

コンフィギュレーション スクリプトの完全な構文を次に示します。

```
mst_gen.vbs
  /msi_path <フル パス>
  [/target_dir <インストール フォルダ>]
  [/account <ユーザー名> <パスワード>]
  [/cep_enabled]
  {/serial <プロダクト キー> [/old_serial <以前のプロダクト キー>]
  | /online_backup}
  [/current_user]
```

角括弧([])は、そのパラメータがオプションであること、または一部のコンポーネントにのみ適用されることを表します。波かっこ({})は、パラメータが相互に排他的であることを表します。この場合、パラメータの各セットはパイプ(|)で区切られます。

ここでは、各パラメータと、パラメータを適用するコンポーネントについて説明します。

あらゆるコンポーネントに適用されるパラメータ

```
/msi_path <フル パス>
```

コンポーネントのインストール パッケージのフル パスを指定します。

D:¥folder¥AcronisAgentWindows.msi などのローカル パス、または

¥server¥folder¥AcronisAgentWindows.msi などの汎用名前付け規則(UNC)のパスを入力します。

/target_dir <インストール フォルダ>

コンポーネントのインストール先フォルダを指定します。

このパラメータを指定しなかった場合、コンポーネントはデフォルト フォルダ %ProgramFiles%¥Acronis(Windows の 32 ビット版)、または %ProgramFiles(x86)%¥Acronis(Windows の 64 ビット版)にインストールされます。

エージェント コア コンポーネントにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisAgentCore.msi にのみ適用されます。

/account <ユーザー名> <パスワード>

コンピュータで Acronis Managed Machine Service を実行するユーザー アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。このユーザー アカウントには適切な権限が必要です(「Acronis サービスの資格情報の指定『10ページ』」を参照してください)。ドメイン名とアカウント名は mydomain¥User のように円記号で区切ります。

このパラメータを使用しない場合、サービスはデフォルトのアカウント(**Acronis Agent User**)で実行されます。

/cep_enabled

コンピュータを Acronis カスタム エクスペリエンス プログラム(CEP)に参加させるかどうかを指定します。

このパラメータを指定すると、ハードウェア構成、使用頻度の最も高い機能と最も低い機能、および問題に関する情報が自動的にコンピュータから収集されて、定期的に Acronis に送信されます。参加条件は、カスタム エクスペリエンス プログラム ウェブ ページで確認できます。

このパラメータを指定しないと、情報は送信されません。

ライセンスを必要とするコンポーネントにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisAgentWindows.msi および AcronisUniversalRestore.msi(/online_backup パラメータを除く)にのみ適用されます。

/serial <プロダクト キー>

コンポーネントのインストール時に使用するプロダクト キーを指定します。プロダクト キーは、ダッシュで区切られた一連の英数字です。プロダクト キーはダッシュも含めて正確に入力してください。

/old_serial <以前のプロダクト キー>

Acronis Backup & Recovery 10 または 11 からアップグレードする際に、その製品のプロダクト キーを指定します。このパラメータは /serial パラメータとともに使用します。

/online_backup

コンポーネントをオンライン バックアップ専用インストールする場合に指定します。プロダクト キーは不要です。

注意: /serial パラメータまたは /online_backup パラメータのどちらかを指定します。同時に両方を指定することはできません。

管理コンソールにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisManagementConsole.msi にのみ適用されます。

`/current_user`

コンポーネントを、コンピュータ上のすべてのユーザー用にインストールするのではなく、現在のユーザー用のみにインストールする場合に指定します。

2.8 アップデート

Acronis Backup & Recovery 11.5 コンポーネントを 1 つ以上アップデートする手順は、次のとおりです。

1. アップデートされたバージョンの Acronis Backup & Recovery 11.5 のセットアップ プログラムを実行します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11.5 のインストール]** をクリックします。
3. **[アップデート]** をクリックします。
4. メッセージが表示されたら、製品のプロダクト キーを入力します。
5. 画面の指示に従います。

無人モードでのコンポーネントのアップデート

無人モードでコンポーネントをアップデートする詳細については、「無人インストール『14ページ』」を参照してください。

3 スタンドアロン製品からアドバンスド プラットフォームへのアップグレード

ライセンスの購入

アップグレードの前に、Acronis Backup & Recovery 11.5 のアップグレードを計画しているコンピュータごとにアドバンスド プラットフォームのライセンスを購入してください。ライセンスの名前は、コンピュータにインストールされているスタンドアロン製品に応じて異なります。

インストールされている製品	アップグレードに適しているライセンス
Server for Windows (すべての Windows エディション)	Advanced Server for Windows (オプション) Universal Restore for Advanced Server for Windows * (オプション) Deduplication for Advanced Server for Windows **
Server for Windows (Windows SBS、Windows Server 2012 Essentials/Foundation、または Windows Server 2012 R2 Essentials)	Advanced Server SBS Edition Universal Restore は、このエディションに無償で付属しています。 (オプション) Deduplication for Advanced Server SBS Edition**
Server for Linux	Advanced Server for Linux (オプション) Universal Restore for Advanced Server for Linux * (オプション) Deduplication for Advanced Server for Linux **

ワークステーション	Advanced Workstation (オプション)Universal Restore for Advanced Workstation * (オプション)Deduplication for Advanced Workstation **
-----------	---

* Acronis Universal Restore 『5ページ』を使用する、または引き続き使用する場合には、このライセンスが必要です。

** Acronis Deduplication を使用する、または引き続き使用する場合には、このライセンスが必要です。

購入後、プロダクト キーが記載された電子メールがお手元に届きます。

製品のアップグレード

Acronis Backup & Recovery 11.5 をスタンドアロン製品からアドバンスド プラットフォームにアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順 1: ライセンスの変更

Acronis Backup & Recovery 11.5 をアップグレードするコンピュータごとに、次のようにライセンスを変更します。

1. Acronis Backup & Recovery 11.5 を実行します。
2. [ヘルプ] メニューで [ライセンスの変更] をクリックします。
3. [ディスク/ファイルのバックアップのライセンス] の右側にある [変更]、[変更] の順にクリックして、次に [使用するプロダクト キー] をクリックします。
4. このコンピュータの新しいプロダクト キーを入力します。
5. [OK] をクリックして新しいライセンスを適用し、警告メッセージで [はい] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

以前にコンピュータに割り当てられたライセンスは取り消され、管理コンソールが再起動されます。これで、管理コンソールをリモート コンピュータに接続し、リモート ロケーションからこのコンピュータに接続することができるようになります。

手順 2: セットアップ プログラムのダウンロード

<http://kb.acronis.com/content/1642> (英語) の説明に従って、Acronis ウェブ サイトからアドバンスド プラットフォームのセットアップ プログラムをダウンロードします。

手順 3: 管理サーバーのインストール

Windows を実行しているコンピュータに Acronis Backup & Recovery 11.5 管理サーバーをインストールします。コンピュータのシステム ディスクに少なくとも 8 GB の RAM と 4.5 GB の空き領域が必要です。

製品をアップグレードしたコンピュータの 1 つに管理サーバーをインストールすることをお勧めします。これを行うための手順は、次のとおりです。

1. セットアップ プログラムを実行し、[Acronis Backup & Recovery 11.5 のインストール] をクリックします。
2. 使用許諾契約の内容に同意し、[変更] をクリックします。
3. コンポーネント ツリーで、[管理サーバー] を選択します。
4. 画面の指示に従います。ほとんどの場合、デフォルトの設定のままにします。

大規模な環境では、専用の物理サーバーまたは仮想サーバーを設定することをお勧めします。詳細については、アドバンスド エディションのインストールに関するドキュメントを参照してください。

手順 4: 管理サーバーへのアップグレード済みコンピュータの追加

1. 製品がアップグレードされた任意のコンピュータで、Acronis Backup & Recovery 11.5 を実行します。
2. **[管理サーバーへの接続]** をクリックし、サーバーの名前または IP アドレスを入力します。資格情報の入力が必要の場合は、管理サーバーの **Acronis Centralized Admins** グループおよび **Acronis Remote Users** グループのメンバであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。
3. **[ナビゲーション]** ツリーで  **[エージェントがインストールされているコンピュータ]** を選択します。
4. ツールバーの  **[複数のコンピュータの追加]** をクリックします。
5. 次のいずれかの方法で、アップグレードされたコンピュータを追加します。
 - アップグレードされたコンピュータの名前または IP アドレスを指定する。
 - ネットワークを参照する。
 - アクティブ ディレクトリ ドメインを参照する。
 - .txt ファイルまたは .csv ファイルからコンピュータの一覧をインポートする。詳細については、アドバンスド エディションのインストールに関するドキュメントの「コンピュータの一覧の指定」をご参照ください。

高度な使用に関するヒント

追加されたコンピュータは、管理サーバーの **[エージェントがインストールされているコンピュータ]** ビューに表示されます。

そのコンピュータのバックアップ計画は変更されません。管理サーバーでバックアップ計画を表示するには、コンピュータの名前を右クリックし、**[詳細の表示]** > **[バックアップの計画およびタスク]** を選択します。製品がバックアップを継続するため、アップグレードの前に作成されたバックアップから復元できます。

これで、複数のコンピュータを同時に 1 つのロケーションにバックアップする集中管理用バックアップ計画を作成することができます。

4 ソフトウェアのアップデートの確認

管理コンソールを開始するたびに、Acronis Backup & Recovery 11.5 によって、Acronis ウェブサイトにソフトウェアの新しいバージョンがあるかどうかを確認されます。新しいバージョンが見つかった場合、新しいバージョンのセットアップ プログラムをダウンロードするためのリンクが提供されます。

アップデートを手動で確認するには、管理コンソールを開始し、**[ヘルプ]** > **[更新の確認]** をクリックします。このウィンドウで、アップデートの自動確認を無効にすることもできます。

Acronis Backup & Recovery 11.5 のアップデートの詳細については、「アップデート」セクション『18ページ』を参照してください。

5 Acronis Backup & Recovery 11.5 のアンインストール

このセクションでは、Acronis Backup & Recovery 11.5 のアンインストールについて説明します。

5.1 対話型アンインストール

Acronis Backup & Recovery 11.5 をアンインストールする場合は、Windows の **[プログラムの追加と削除]** または **[プログラムと機能]** ツールではなく次の手順に従うことをお勧めします。

Acronis Backup & Recovery 11.5 をアンインストールする手順は、次のとおりです

1. **[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[Acronis]** → **[Acronis Backup & Recovery 11.5 のアンインストール]** の順に選択します。
2. Acronis Backup & Recovery 11.5 のログとタスクを削除するには、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェック ボックスをオンにします。後で製品を再インストールする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。
3. **[削除]** をクリックします。

5.2 無人アンインストール

Acronis Backup & Recovery 11.5 を無人モードでアンインストールするには、**msiexec** ユーティリティを実行します。このユーティリティでは、製品のインストール パッケージ(.msi ファイル)が使用されます。

Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント for Windows をアンインストールするときは、機能をアンインストールしてからエージェントをアンインストールし、それから Acronis Backup & Recovery 11.5 エージェント コア コンポーネントをアンインストールすることをお勧めします。

Acronis Backup & Recovery 11.5 をアンインストールする手順は、次のとおりです。

1. インストール パッケージをフォルダまたはネットワーク共有に取り出します。Universal Restore アドオン『5ページ』がインストールされていない場合は、**AcronisUniversalRestore.msi** パッケージを取り出す必要はありません。
2. Universal Restore アドオンがインストールされている場合は、次のコマンドを実行します(この手順と次の手順では、インストール パッケージは `¥¥myserver¥share` にあると仮定します)。

```
msiexec /uninstall ¥¥myserver¥share¥AcronisUniversalRestore.msi /qb
```
3. 次のコマンドを実行します。

```
msiexec /uninstall ¥¥myserver¥share¥AcronisTrayMonitor.msi /qb
msiexec /uninstall ¥¥myserver¥share¥AcronisAgentWindows.msi /qb
msiexec /uninstall ¥¥myserver¥share¥AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi /qb
msiexec /uninstall ¥¥myserver¥share¥AcronisAgentCore.msi /qb
msiexec /uninstall ¥¥myserver¥share¥AcronisManagementConsole.msi /qb
```

5.3 Acronis セキュア ゾーンの削除

Acronis Backup & Recovery 11.5 をアンインストールしても、Acronis セキュア ゾーンとその内容が影響を受けることはありません。引き続き、ブータブル メディアから起動するときに Acronis セキュア ゾーンからデータをリカバリすることができます。

Acronis セキュア ゾーンを削除する必要がある場合は、エージェントをアンインストールする前に、オペレーティング システムまたはブータブル メディアで次の手順を実行します。

Acronis セキュア ゾーンを削除するには

1. **[アクション]** メニューで **[Acronis セキュア ゾーン管理]** をクリックします。
2. **[Acronis セキュア ゾーン削除]** ウィンドウで、セキュア ゾーンから解放された領域を追加するボリュームを選択し、**[OK]** をクリックします。

複数のボリュームを選択した場合、領域は各パーティションのサイズに比例して分配されます。ボリュームを選択しない場合は、空き領域は未割り当てになります。

[OK] をクリックすると、Acronis Backup & Recovery 11.5 によってゾーンの削除が開始されます。

著作権情報

Copyright © Acronis International GmbH, 2002-2013. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis セキュア ゾーン」は、Acronis International GmbH の登録商標です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis Startup Recovery Manager」、「Acronis Active Restore」、および Acronis ロゴは、Acronis International GmbH の商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc. の米国ならびにその他の地域における商標または登録商標です。

Windows および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

ここに記載されているその他すべての商標および著作権は、それぞれの権利所有者に帰属します。

著作権所有者の明示的な許可なく本ドキュメントの実質的な修正版を配布することは禁止されています。

著作権所有者からの事前の許可がない限り、いかなる形態（紙媒体など）であっても商業目的で本ドキュメントまたはその派生物を配布することは禁止されています。

ドキュメントは、「現状のまま」で提供され、商品性に対する黙示的保証、特定の目的に対する適合性、権利を侵害していないことなどを含む明示的または黙示的な条件、言明、および保証に関する責任を負いません（免責条項の範囲が法的に無効と見なす場合を除く）。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある license.txt ファイルをご参照ください。本ソフトウェアまたはサービスと共に使用するサードパーティ コードおよび関連するライセンス条項の最新の一覧については、<http://kb.acronis.com/content/7696> をご参照ください。

Acronis の特許取得済みの技術

この製品で使用されている技術は、以下の特許の対象です。米国特許 # 7,047,380、米国特許 # 7,246,211、米国特許 # 7,318,135、米国特許 # 7,366,859、米国特許 # 7,636,824、米国特許 # 7,831,789、米国特許 # 7,886,120、米国特許 # 7,934,064、米国特許 # 7,949,635、米国特許 # 7,979,690、米国特許 # 8,069,320、米国特許 # 8,073,815、米国特許 # 8,074,035。